

令和6年度佐賀市環境審議会 第3回地球温暖化対策等検討部会 議事録

◆ 開催日時

令和6年10月17日（木） 14時00分～16時00分

◆ 開催場所

佐賀市役所 大財別館4階 4-2会議室

◆ 出席委員（敬称略）

岡島俊哉（部会長）、草場真智子、松尾真理子、高橋朋子、中村佳代、中野千歳、松本考司

◆ 欠席委員（敬称略）

関清彦

◆ 事務局

宮崎環境部長

環境政策課（梶山副部長、石川室長、西岡主査、小柳主任、前田主任）

循環型社会推進課（羽立参事）

環境保全課（大家課長）

◆ 傍聴者

1名

◆ 議事要旨

1 開会

2 議事

(1) 第3次佐賀市地球温暖化対策等実行計画（区域施策編・事務事業編）素案について

《事務局説明》

資料1

《意見交換等》

【区域施策編について】

○会長

ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

p. 51 記載の「グリーンスローモビリティ」や「パーソナルモビリティ」という言葉は、一般の方にもわかりやすいように、もう少し簡単な言葉にするか、コラムをつけてはどうか。また、同ページ内にある「エリートツリー」という言葉もわかりにくい。

○事務局

資料編として、計画の最後に用語解説集を載せる予定だが、1～3章でもページ内で言葉の補足説明を行った方がよい場合は、※印等をつけて説明を追加し対応したい。

○部会長

計画の中には日常でありあまり使用しない言葉も出てくるが、カタカナや専門用語で記載していると、市民には伝わりにくく、環境への行動につながっていかない。市民がわかりやすいように、改善していただきたい。

○委員

資料「暮らしのCO2ダイエット」について、ゴールを意識しやすく、視覚的に情報が入ってくるのでわかりやすい。

○委員

前回意見した点を反映していただき見やすくなった。

p. 56 の適応策の「健康」について、熱中症注意喚起のメーリングリストによる配信とはどのようなものか。また、クーリングシェルターについて、街で見かけることはあるが、事前にアプリ等でクーリングシェルターの位置が確認できるようなものはあるのか。

○事務局

メーリングリストについては、「さがんメール」に登録していただいた方を対象に情報を配信している。クーリングシェルターについては、アプリでは確認できないが、佐賀市のHPに場所の一覧を掲載している。

○委員

アプリでもクーリングシェルターの位置が確認できるともっと身近なものになると思う。

○事務局

災害時の避難所についてはマップがあり、空き状況等が確認できるように整備されている。クーリングシェルターについては、今年度始まったばかりの取組で今後どうするか担当課と

検討したい。

○委員

緩和策については、チェックリスト（「暮らしのCO2 ダイエット」）が作成されてわかりやすくなった。適応策については文言の記載だけであるため、緩和策と同様に市民目線のチェックリストがあるとよいと思う。

また、p. 51 の目標年度が 2032 年度になっているが、間違いはないか。

○事務局

森林整備面積の目標については、2032 年度のもので間違いはない。これは、森林林業再生計画から引用している。担当課に 2034 年度で設定ができないか相談中である。

○委員

ロードマップの後に、細かい説明があり構成的にわかりやすい。

○委員

「暮らしのCO2 ダイエット」を市民に配布する予定はあるか。以前、市から家に貼れるようなサイズのもの（内容は今回とは違う）をいただいた記憶がある。今回も、同じように配布するのか。また、「すべて取り組むと、家庭から排出されるCO2を647.6kg削減」とあるが、この値がどういうものか説明があるとわかりやすい。

○部会長

p. 53 取組指標「1人1日当たりごみ総排出量」の目標856gは、現状の936gからもう少し削減した値で設定できないか。

○事務局

現在、一般廃棄物処理基本計画を策定中であり、その計画と同じ数値目標を実行計画でも使用している。人口減少や様々な削減策を加味して積み上げた数値が856gである。もちろん目標以上の削減を目指していきたい気持ちはあるが、数値については現状のままで変更の予定はない。

○部会長

p. 55 有明海の漁業者への情報提供支援とあるが、「漁業」の認証制度はどのように活用されているか。認証制度は、消費者がラベルを見て判断し、行動を起こす一つの手法である。有明海や漁業者に限らず、林業、農業もそうだが、認証制度はどのくらい意識して取り組んでいるのか。また、有明海の漁業者に「海苔」の認証制度はあるか。認証制度があると、消費

者が「海を守る」と感じ、行動する動機になるのではないか。

○事務局

現在、漁業の認証制度については把握していない。

【事務事業編について】

○委員

p. 60 に排出削減目標の達成に向けた取組の項目を挙げているが、それぞれの項目で何パーセント削減できるのか示してはどうか。これらの取組を行って本当に 2030 年度に温出効果ガスを 35%削減できるか疑問である。

○事務局

取組ごとの削減量を示すことができればよいが、重複している取組内容もあり、厳密に計算することが難しい。よりわかりやすく表記できるように検討したい。

○部会長

数値目標を設定すると、数値目標を達成することに意識がいつてしまうが、それよりも本来の目標を達成するための手段として数値目標を活用すべきである。数値を達成することも大切だが、目的やビジョン、理念に数値目標が妥当かどうか検討すべきである。
ZEB Ready や ZEB Oriented という区分けは、ZEH にも当てはまるのか。それにより、家を建てる時に補助金の違いはあるのか。

○事務局

ZEB と ZEH では少し違いがあるかと思う。

○部会長

学校の授業で学生に作文を書かせることがあるが、ここ数年、学生の温暖化に対する意識が高まっていると感じる。

(2) 第 3 次佐賀市環境基本計画（素案）について

《事務局説明》

資料 2

《意見交換等》

○部会長

p. 39 脱炭素経営の推進と p. 40 先進技術の創出について、p. 39 の担当課は、ほとんど環境政

策課、p. 40 は様々な課が記載してあるが、担当課が環境政策課だけでイノベーション創出が可能なのか。担当課欄に他の課は載せないのか。

○事務局

国では、経産省がGXや企業の脱炭素経営等の取組を行っているが、現時点の佐賀市の経済部門については、中心市街地のことがメインで、(脱炭素経営の推進等は)難しい。経済部と話しは進めているが計画書に担当課として記載するまで至っていない。今後、経済部と連携した取組等は出てくるかと思う。

○部会長

p. 41 に施設機能向上推進室とあるが、どのような部署なのか。

○事務局

清掃工場の大規模改修と最終処分場の工事の2大プロジェクトのために作られた比較的新しい部署である。また、太陽光発電などの再エネ関係にも取り組んでいる。

○委員

p. 34 の環境将来像について「トンボ舞う」とあるが、どのような経緯でこの文言を使用することになったのか。

日本の古い呼び名に「秋津洲(あきつしま)=トンボの国」というものがある。「あきつ」とはトンボの古い呼び方である。日本書紀にもそのような記述があり、弥生時代の青銅器にもトンボや鳥の絵が載っている。トンボは佐賀のイメージに合うと思うが、なぜトンボが佐賀のシンボルなのか疑問に思う方も多いように思う。なぜトンボにしたのか、心に響く説明を入れてはどうか。

○事務局

基本計画については、もう一つの部会である自然・環境、廃棄物等検討部会で内容の審議を重ね、将来像についてもご意見を伺ってきた。2次計画の環境将来像に「守り、育み、未来をつくる トンボ飛び交うまち さが」とあるように、佐賀は水辺環境が豊かで、これまでも自然環境を守るためのシンボルとしてトンボを掲げ、事業等を進めてきた。このような経緯もあり、3次計画でも「トンボ」を環境将来像に入れるということになった。

○委員

トンボを環境将来像として掲げることはよいが、みんなが受け入れやすい説明を入れてはどうか。

○事務局

本日の資料にはないが、3次計画の素案の中で環境将来像の語句の説明を掲載している。
2次計画のp.78に記載があるが、平成元年から本市は「トンボ王国・さが」づくりの事業を始めた。若い世代ではこの取組を知らない方もいるが、この取組が始まって以降、「佐賀＝トンボ」というイメージがある。このイメージを引き継ぐために、将来像に「トンボ」を入れたことも理由の一つである。

○委員

佐賀は農業国であり、トンボが稲作と関連のあるものだとみんながわかるような説明を入れてはどうか。

○委員

トンボが多いことは、水がきれいなことの象徴である。また、昔からトンボは佐賀の象徴であると言われているので、説明はなくてもよい。

○委員

トンボの種類が一番多いのは滋賀県である。佐賀がトンボを選んでいる理由は、記載すべきであると思う。

○事務局

なぜ「佐賀＝トンボ」なのかという意見もあったので、(本日の資料にはないが)基本計画の素案にトンボ王国の取組等の説明を載せており、環境将来像の語句の説明の中で佐賀市のトンボに対する想いを入れている。

○部会長

子どもと川に入って魚釣りをしたときに、網の中に様々な形・種類のヤゴが入っており、佐賀市のトンボの生息環境の豊かさに気づいた。

トンボがたくさん飛び、子どもたちが虫取り網をもって走り回る姿が佐賀市の景色となり、佐賀市に住みたいと思う人が増えるのではないか。そのようなこと関連付けてみてはどうか。また、教育関係の部署とも連携して、取組を発展させることができるとよい。

○委員

歴史的な観点からもトンボのイメージを表現すると、みんながわかりやすいと思う。アプローチの仕方を検討いただきたい。

○委員

学校では、虫を見つけると子どもたちはいきいきとしており、虫取り網や虫かごを持って遊んでいる。本市の環境がよいからこのような姿がみられる。小さい頃から自然に親しんでいると、大人になっても環境について考えられると思う。

○委員

p. 40 スマート農業の推進について現状を知りたい。以前、ドローンを使用して薬の原液を散布していると聞いたことがある。ドローンを飛ばすことは先進技術としてはよいが、もし原液を撒いているのであれば環境面でどうなのか疑問である。

また、DX が浸透し、新たに GX について会社として取り組んでいくところだが、佐賀における取組状況はどうなのか。計画の中に GX の記載がなかったので、教えていただきたい。

○事務局

スマート農業の原液の散布については把握できていない。

GX については、すでに排出量取引制度が始まっており、現在は GX リーグ等がある。佐賀市の GX の取組については、まだまだこれからである。佐賀では、昨年初めて脱炭素に関する研修がスタートしたばかりである。本市では脱炭素に取り組んでいる企業をパートナーとして認定する「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー」を実施している。また、県では九州地方環境事務所と佐賀銀行、県や市町の手を挙げた企業を中心に脱炭素経営の推進や見える化に取り組んでいこうという段階である。数年のうちにはそのような経営が企業にも求められるようになってくると思う。

○委員

GX については、企業として取り入れていかなければならない。GX という言葉が計画の中にあってもよいと思う。

○委員

p. 38 まちなかウォーカーブルの推進に、「佐賀駅の南北軸を中心に～」とあるが、これから県立大学が建つので、東西軸の方にも体系的に広がっていくのではないか。また、歩ける人ばかりではないので、歩道の幅を広げたり、段差をなくしたり、環境の整備ができればよい。今回の国スポをきっかけにより発展してほしい。

○事務局

本市の自転車利用環境整備計画では、東西南北広いエリアを（計画対象の）範囲としている。また、県立大学も南北軸に含まれる。

現在、キックボードやチャリチャリが設置されており、今回の国スポの会場は、駅から 1.2 km 程の距離にあり、市民のみなさんも歩いたり、チャリチャリを使用されたりしている。ま

た、シャトルバスも運行されており、問題なく移動できたかと思う。

○部会長

それでは、ほかに意見がないようであれば、本日の議事は終了としたい。

3 その他

なし